

パワハラを捏造する 『当たり屋』の手口 ご存知ですか？

【 狡猾な手口は 煽り 捏造 拡散 】

- ・指示無視を繰り返す**煽り**行為を行って上司が怒るように仕向ける
- ・この時に上司が発した言葉(**キーワード**)を複製して、わざわざ別の日時のパワハラ被害を**捏造**する(**日時操作**)
- ・捏造したパワハラ被害を周辺従業員に**拡散**した上で会社に申告する

【 巧妙な技法は キーワードの複製 日時操作 】

当たり屋は言葉巧みに周辺従業員の同情を集めながら、パワハラ被害を捏造します。当たり屋は**嘘の中にちよっぴりのホントを混ぜます**。複製されたキーワードがちよっぴりのホントです。捏造されたパワハラ被害の中の複製されたキーワードと、周辺従業員の記憶に残る**キーワード**が一致しているため、捏造部分を含めた当たり屋の主張が認められ易くなります。

その一方で、上司が煽り行為の証拠を示しても、当たり屋による**日時操作**の影響により証拠として取り上げられません。当たり屋の主張する被害日時とは、異なる日時のエピソードを上司が主張している事にされてしまっているからです。

【 録音が無い 】

真正のパワハラ被害の場合は、被害者が「録音」を証拠とする事で被害を確認できます。しかし当たり屋の場合には、そもそも被害事実が無いので、「録音」を証拠にしません。同情を集めて得た周辺従業員の証言を利用するのが特徴です。真正のパワハラとは逆に、加害者とされる側が「その時の録音を証拠としたい」と考えるのですが、**唐突に訴えられた加害者側に録音の用意はありません**。当たり屋はそこに目を付けているのです。

【パワハラ冤罪対策】

日常的録音を習慣付ける必要があります